

森林環境教育(森林ESD)活動報告・意見交換会発表概要

① 活動報告課題名

『村のすごい!』を見つけよう ふるさとを元気にするESDプログラム

② 発表団体名

岡山県西粟倉村教育委員会

③ 発表概要

西粟倉村は、岡山県の最北東部にある人口が1,500人ほどの小さな村である。

村では今“百年の森林構想”を打ち出し、村の面積の八割を占めるスギやヒノキの人工林を有効活用し、持続可能な森林経営をもとに産業や村づくりに、村をあげて取り組んでいる。

また、西粟倉村では、森林とともに生きる村にふさわしい教育を考え続けてきた。西粟倉小学校では“ふるさと元気学習”を行っている。これは、ふるさとの自然や人と触れ合い、子どもたちの生きる力・学ぶ力を高め、ふるさとをもっと元気にしていくという学習である。

今年の8月4・5日には、林野庁等が主催する“学校の森・子どもサミットin西粟倉村”が開催された。全国から子どもたち60名、大人40名が参加し、西粟倉村の豊かな森林を舞台にした体験活動、その後、まとめ表現する活動、夜には村の人々を前に発表・交流する場を設け、全国の子どもたちが“ふるさと元気学習”を体験した。

1. 森林体験学習プログラムの実施

8月4・5日に学校の森・子どもサミットin西粟倉村で実施した「森林体験学習プログラム」を例にとって“ふるさと元気学習”を紹介する。

このプログラム実施の目的は、西粟倉村の豊かな森林と触れ合い、子どもたちの生きる力・探究する力を育むことにある。また、プログラムの特長は、体験・表現・交流の場を設定し参加者と村の人たちがお互いに学び合うことができることである。

以下にその進め方を説明する。

(1) オリエンテーション (課題を知る)

参加した子どもたち60人を12班にわけ、活動の課題「村のすごい!を見つけよう」を提示。体験→表現→発表交流する活動であることを説明。

また、子どもたちが自分たちの力で活動をすすめることが重要であることを知らせる。

(2) 体験 (形態の異なる3つのエリア)(情報の収集)

①天然林エリア:村の最北部にある天然林での活動で「森のおくりものビンゴ」を班の仲間と協力して行いながら散策する。

②人工林エリア:スギ・ヒノキの人工林で高性能大型林業機械による間伐作業見学。枝打ち体験等。

③沢エリア：森林を流れる沢を班で助け合いながら実際に歩いて上る。
また、樹齢70年の手入れのされたスギ林を歩く。

(3) 表現 （情報の整理・分析）

子どもたちが村や森林で体験したことを、班ごとにまとめる。
班の「すごい！」を一枚の写真とキャッチコピーで表す。

(4) 発表・交流 （表現・交流）

写真をスライドで写しながら、12班が班ごとに1分間で発表。
その後ポスターセッション形式で村の人と交流。
最後に全体会で村の人も含め全員で意見交流を行う。

(5) ふり返り

プログラムの終わりに子どもたち全員で活動をふり返り、学んだことや成長できたことを発表し合う。

2. 成果

参加した引率の先生や関係者へのアンケート結果から成果について述べる。

- ・活動だけで終わらない人との関わりが深まるものだった。
- ・アクティブラーニングを取り入れた学習がすばらしかった。
- ・活動に地域の方が大勢ボランティアとして関わっていたことが参考になった。

3. 今後

小学校の特色ある教育として始まった“ふるさと元気学習”を、村の特色ある教育として発展させることが今後の課題である。